

# 厚生連だより

Letter of JA Mie Koseiren

菟野町 竹成五百羅漢



## contents

新年のごあいさつ	2
当院の感染対策チーム(ICT)活動の紹介	3
もの忘れ外来開設	4
感染対策チーム(ICT)の紹介	4
80列マルチスライスCTを導入	5
医療と介護の一元化に向けた連携を目指した取り組み	5
特別支援学校(看護・介助)の業務補助技能講習会開催	6
第26回病院祭を開催	7
簡単おもてなし料理	8

### JA三重厚生連の基本理念

JA三重厚生連は、医療・保健・福祉活動を通じて、  
組合員と地域住民の皆さまが、安心して健やかに  
暮らせる地域づくりに貢献していきます。



#69  
2016. Jan.



## 新年のごあいさつ



経営管理委員会会長

奥野 長衛

新年あけましておめでとうござい  
ます。

皆さまにおかれましては、輝かしい  
新年を迎えられたことと存じ、心より  
お慶び申し上げます。平素は厚生連事  
業につきまして皆様方の深いご理解と  
ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、私ごとでは  
ありますが、8月11日に全国農業協同  
組合中央会（JA全中）会長を拝命いた  
しました。「和を以って尊しとなす」「万  
機公論に決すべし」の精神で、JA組合  
員、地域住民のご意見を重視した組織  
運営を図ってまいり所存です。

JAグループ三重では、第42回JA  
三重大会で決議した、「多彩な農業」の

維持・拡大、協同組合活動の実践によ  
る「元氣な地域」づくり、環境変化を踏  
まえた組織経営基盤の強化及びPPP  
（環太平洋連携協定）に関する特別決議  
に則り全力で取り組む次第です。

三重県厚生連では、紀勢地域で唯一  
の公的医療機関である大台厚生病院の  
新築移転工事が予定通り完成し、平成  
27年4月に開院いたしました。

現在、医療を取り巻く環境は、団塊の  
世代が後期高齢者となる2025年に  
向け、消費増税、病院・病床機能の再編・  
再構築を含む医療制度改革を推し進  
めています。このような状況の中、J  
A組合員、地域住民の皆様が住み慣れ  
た地域で健やかに生活が送れるよう、  
選ばれる病院づくりを目指し、役職員  
一同一丸となって邁進する所存でござ  
いますので、なお一層のご支援とご協  
力をお願い申し上げますとともに、皆  
様のご健勝とご多幸を祈念し、年頭の  
ご挨拶といたします。



代表理事理事長

齋藤 義則

新年明けましておめでとうござい  
ます。皆様には爽やかな新春をお迎えの  
ことと心からお慶び申し上げます。ま  
た、平素は本会事業に対し、暖かいご支  
援とご協力を賜り厚く御礼申し上げ  
ます。

昨年も梶田隆章氏がノーベル物理  
学賞、大村智氏が生理学・医学賞と2  
氏がノーベル賞を受賞され、フィギア  
スケートグランプリファイナルでの羽  
生選手の世界最高得点での金メダルの  
獲得などの明るいニュースもありまし  
たが、フランスのパリ同時多発テロで  
400名以上の死傷者を出した悲しい  
事件等のニュースもありました。

医療分野では、国は団塊の世代が後

期高齢者となる2025年度を見据  
えて地域包括ケアシステムの構築に不  
退転の決意で取り組んでいるところで  
す。昨年6月に医療介護総合確保推  
進法を定め、病床機能報告制度を基に、  
昨年からの地域医療ビジョンの策定作業  
が地域医療構想調整会議を軸に積極  
的に進められています。

一方、JAを取り巻く環境も昨年8  
月に農協法の改正があり、10月にはT  
PP（環太平洋連携協定）が大筋合意さ  
れるなど益々厳しさを増しており、J  
Aグループ一丸となってこの危機を乗  
り切っていくかねばなりません。

平成28年度は中期3ヵ年計画の2年  
目の年であり、診療報酬改定の  
年でもあり、マイナス改定が見込まれ  
る厳しい状況が想定されます。本会の  
使命は、地域住民の皆様が安心して健  
やかに暮らせる地域づくりに貢献する  
ことにあります。医療情勢厳しい中で  
はありますが、新年度も将来を見据え  
て、組合員および地域住民の皆様が安  
心して健やかに暮らせる地域づくりに  
貢献するため、役職員一丸となって取  
り組んでいくことをお誓いし新年の挨拶  
といたします。

## 当院の感染対策チーム(ICT: Infection control team)活動の紹介

鈴鹿中央総合病院 感染対策チーム 小林百合

病院内には、感染症にかかっている患者さんと微生物に対する抵抗力が弱く、感染症にかかりやすい患者さんが多く入院しています。また、感染症を治すために抗菌薬を使用することがありますが、その抗菌薬が効かないような菌(耐性菌)がいる可能性もあります。

病院内では、感染しやすい患者さんに感染をうつさないこと(感染を防ぐ)、そして病院に訪れる方々が微生物をもつて帰らないようにする(感染を拡大させない)ことが重要です。

当院では、感染対策に関する専門的な知識と経験を有する医師(ICD: 感染制御医師)をはじめ、臨床検査技師・薬剤師(感染制御認定薬剤師)・感染管理認定看護師など多職種で感染対策チーム(ICT)を組んで、患者さんやご家族さまの安全と、病院職員の健康を守るための活動に取り組んでいます。

主な取り組みは、院内での感染発生動向に関する調査・報告、感染症発生時の対応、感染流行時の対応、院内ラウンドを実施し、感染対策の実施状況



①感染防止対策連携施設による相互ラウンド(当院をラウンド中)



の確認・指導などを行っていきます。院内ラウンドでは、耐性菌が検出されている病棟をラウンドし、患者さんの病状や抗菌薬の使用状況、感染対策の実施状況をチェックし、



②感染防止対策連携施設とのカンファレンス



③当院のICT ラウンド

対策に取り組んでいます。

カンファレンスでは、各施設の医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師等が参加し、施設内の感染発生状況の報告や感染対策の実施状況等について意見交換

必要に応じてアドバイスをしています。また、インフルエンザやノロウイルスなどの感染症が院内に広まることのないよう、各現場で適切な感染対策が行われているか、患者さんの療養環境が整備されているかなどのチェックをしています。

2012年度からは、他施設・地域医療機関との連携を図っており、感染防止対策地域連携施設と連携し、定期的にカンファレンスや施設訪問等を通じて相互チェックを行い、地域全体で感染

を行っています。また、地区保健所とも連携しており、海外から持ち込まれる感染症(エボラ出血熱や中東呼吸器症候群(MERS)等)に関する施設内対応についてディスカッションを行った際は、行政の立場からアドバイスや最新の情報提供をいただき、鈴鹿市地域全体で感染対策に取り組んでいます。

これからも、当院に来られるすべての方々に安心して来院していただけるよう、院内の感染防止対策に取り組んでいきたいと考えています。

## もの忘れ外来開設

菰野厚生病院 診療部長 神経内科 鈴木 日子

高齢化が進むにあたり、認知症の数が急増しており、認知症患者の総数は400万人とも500万人ともいわれています。認知症対策をしていかなければ、各家庭における介護負担が増多し、家庭生活の崩壊をまねき、社会的にも経済的にも大きな障害をきたすことが考えられます。政府も新オレンジプランを軸に、認知症患者の増加がひきおこす家庭内や、社会的な問題を解決していく施策をかためてきております。これらは医療施設のみでの解決は大変困難であり、介護、社会福祉を包括した形で問題にとりくむ必要があります。各自自治体を中心に取り組みが始まっています。

認知症はもの忘れを中核とする疾患群でありその成因は多岐にわたります。認知症の中には、治癒する疾患も含まれており、もの忘れは年だからしょうがないとあきらめるのではなく、どんな病気で認知症になったか診断する必要があります。そのためまずもの忘れなどの症状があれば、診断のために受診していただく必要があります。



そこでそのきつかけとして、もの忘れ外来に来ていただければと考えこの外来を開設いたしました。同時に認知症が引き起こす問題点を社会福祉士、言語療法士、認知症サポート看護師とともに考え、問題解決につながり、在宅介護をよりよく行えるようになるような体制ですすめていきます。また菰野町役場との連携や、診察時に社会福祉のスタッフも同席していただき、地域での問題を共有する予定としています。

平成27年12月より第2・4火曜日（14時～16時）完全予約制で開始しております。

## 感染対策チーム（ICT）の紹介

いなべ総合病院 感染管理専従 感染管理認定看護師 石川 美菜子

近年の診療報酬改定からも窺えるように、院内感染対策の重要性は高まっています。医療や療養環境などが変化するとともに、感染対策の在り方も変化して行かなければなりません。病院全体として感染対策に真摯に取り組む風土を根付かせたいと思っています。

いなべ総合病院は、平成25年度より感染防止対策加算1、感染防止地域連携加算を取得しています。従って、私は、同年より感染管理の専従として勤務しています。

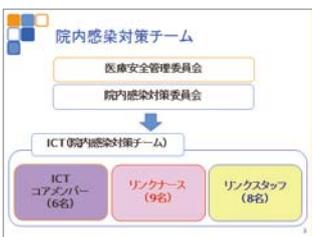
当院の感染対策チーム（以下ICT）は、総勢23名と比較的大きな組織で、2015年度の活動目標を「現場を変えるICT活動」他職種で関わる「ICT」として活動しています。

ICT活動の実際は、ICT環境ラウンドや、全職員を対象とした手洗い検査、年2回行う感染対策研修（全体研修）、ICTニュースの発行などを行っています。毎月行われるICT会議で、それら内容を検討します。また、ICTミニ勉強会としてICTメンバーが当番

制で講師を務め、感染対策の知識を高めあったり、情報を共有したりしています。忙しい業務の中、各担当者は、工夫した発表を行っています。

また、ICTコアメンバーは、主に感染防止対策加算の施設要件の活動を行い、年4回の地域連携カンファレンスや、菰野厚生病院との相互評価、院内ではICTラウンドを行っています。コアメンバーの薬剤師は、平成26年度に感染制御認定薬剤師の資格を取得し、感染制御の専門家として大きな力を発揮しています。今後、一層期待される地域への貢献も、このICTコアメンバーが担う役割として自覚しています。

当院の理念は、「地域医療の向上を目指し、質の高い医療を提供します」です。その理念に恥じない感染対策をICTが中心となり実現して行きたいと感じています。



当院の感染対策組織図

## 80列マルチスライスCTを導入

大台厚生病院 診療放射線技師 村林 徹

平成27年4月の新築移転に伴い長年使用した4列CT装置に代わり最新の80列マルチスライスCT装置が導入されました。高齢な患者さんが多いこの地域において今までのCT装置では撮影時間も長く息止めも長い為、患者さんには大変な思いを強いてきました。

今回導入となった80列マルチスライスCT装置は画質、スピード、被ばくの低減など、従来のCT装置ではトレッドオフの関係であった要素を高いレベルで両立する技術が盛り込まれた最新のCT装置となっています。

導入におきましてはこの地域でそこまでのハイエンドな装置が必要ないのではないかとの声もありましたが、診療所が点在しその中核病院となつている当院では、救急患者をはじめ、

高血圧症、狭心症等の循環器疾患、糖尿病などの内分泌代謝疾患、慢性肝炎や肝硬変等の消化器疾患、呼吸器疾



患、腎疾患、神経疾患、脳血管障害、血液疾患など多岐にわたります。

このCT装置の導入で、今まで血管造影設備がなく当院では不可能であった心臓冠動脈の検査ができ循環器疾患の代表である狭心症の早期発見も可能になり、また大腸内視鏡専門の医師が不在で不可能であった大腸内視鏡検査においてもこのCT装置を用いることでCTコロンスコピーという形で大腸の検査が可能になりました。

こういった人口減少の一途をたどる地域で多くの専門技術を持つ医師を確保するのは大変難しく、人的資源が乏しい中で地域の皆様のニーズに応える検査を行うため大いに活躍してくれるものと思います。

今後とも地域の中核病院として、医療水準の向上のために必要な画像診断装置を導入するなどし、地域ニーズに応え、医療サービスの充実を目指します。

## 医療と介護の一元化に向けた連携を目指した取り組み

南島メディカルセンター 看護部長 松島 由実

当センターは、人口約14,000人の南伊勢町(旧南島町)に位置し、高齢化率は48.1%と全国でも有数の地域です(三重県27.1%、全国26.0%)。各市町村において『地域包括ケアシステム』に向けた準備が進められている中、当地域で唯一の医療介護施設として、その役割機能を発揮できるように取り組んでいます。

入院設備と老人保健施設(水脈の郷)に加え、訪問看護ステーション、居宅介護事業所、通所リハビリセンターを併せ持つ強みを活かし、院内外の連携を強化するため、平成27年4月に地域連携室を設置しました。専用の部屋があるわけではありませんが、医療機関だけではなく、介護福祉施設を含めた連携を図ることにより、一元化したサービスを提供するとともに、センター内の横のつながりを大切にした運用ができるよう努めています。

また、利用者や家族と



のコミュニケーションを通して、地域全体への連携につながることを目指して、イベントにも力を入れています。最近では、地元中学校の吹奏楽部に

懐かしい曲を披露していただきました。水戸黄門のテーマソング『ジャンジャンジャジャン』が流れると、手拍子で音頭をとる入所者さんがとても楽しくうでした。「今日はありがとう。とっても楽しかったわ。学生さんがまた来ると約束してくれた。」と涙を浮かべながら話してくださいました。単調になりがちな日々の中で、季節と感動を感じていただく事が、私たち職員の満足感や達成感にもつながっていると考えます。

既に2025年問題を迎えていると言っても過言ではない地域では、医療や介護に求められるニーズが複雑多様化しています。地域ビジョンを見据えて、包括的なサービスの提供を実現していきたいと思っております。

## 特別支援学校（看護・介助）の業務補助技能講習会開催

（株）三厚連ウイズ 社長 畑中 寿美

「今後の就職は、医療・福祉の分野が増える。三厚連ウイズのベッドメイキングを見て感動した。卒業生が自分たちだけであそこまでできるんだ」という三重県教育委員会特別支援課の課長さんのことばでこの企画は始まりました。

それは、昨年6月。我が社に教育委員会の先生方が見学され、ベッドメイキングを社員達だけで進めている姿に驚かれました。病棟からの依頼をPH



Sで受けて、チームで各病棟を回り、指示がなくても判断をして清掃とベッドメイキングを行い、各部屋の所定の位置に戻してくるという一連の流れを見て頂き、「ぜひ、この技術を特別支援学校の生徒に教えて欲しい」という申し出となりました。

我が社は、社員達が2年ほどかけて、リーダーを中心に支援員の指導をうけながら自立した仕事ができるようになりました。企業において補助業務だけではなく、自立した仕事になっていることが評価されたわけです。

また、ベッドメイキングが病棟スタッフにとっても喜ばれていることも大きな理由です。また、看護部からは、「退院ベッドが多いと病棟の仕事が遅れるので、ウイズの仕事で大変助かっています。」と嬉しいことばを頂くほどになっています。

そこで、第1回は9月3日に鈴鹿中央総合病院内と看護学校をお借りして、まず、先生方への講習を実施しました。この時も、社員達が服装、手洗い、包

布入れ、車いすの操作など実際に行いました。先生方も卒業生の活躍を喜ばれ、「生徒に教えていきたい」と数校から手が上がりました。

次の段階として、今回実施した「平成27年度特別支援学校 看護・介助の業務補助技能講習会」となりました。今回は、三重県内特別支援学校高等部生徒を対象に行いました。

場所は、JAビル5階大会議室にて主催は三重県教育委員会特別支援課、協力が三厚連ウイズであり、午後から行われました。

講習会は、小牧職場支援員、社員山本と佐藤で行いました。

ビデオや実地指導を中心に枕の入れ方、シーツの入れ方、車いすの操作などを行い、高校生の皆さんはとても熱心に取り組んでいただき、感心しました。

最後に社員でベッドメイキングを行



い、今後、検定に取り組むためのモデルとなってもらいました。教育委員会の皆さん、先生方、生徒の皆さん、我が社と一体となって取り組むことができました。次は、平成28年2月12日に練習の成果を検定として生徒さん達に披露していただく予定です。

この取り組みが、特別支援学校の進路選択に役立つて頂くことを心から願っています。

最後に、無料でベッドや車いすを貸して頂き、最後までお付き合いいただいた（株）ライフテクノサービス様、関係者の皆様に感謝いたします。

## 第26回病院祭を開催

鈴鹿厚生病院 病院祭実行委員 小林 亜依

平成27年10月17日に第26回病院祭を開催しました。

今年、鈴鹿厚生病院は開院50周年を迎えました。毎回病院祭はテーマを決めて開催するのですが、開院50周年を記念した今年のテーマは「誇れる未来へ 新たな一歩」さあ歩みだそうあなたから」でした。

病院祭前日の天気予報では雨となっていました。当日は雨も降らず予定通りグラウンドも使用して開催することができました。会場は全部で4会場、病院全体が賑やかな雰囲気です。毎週盛りだくさんの催し物がありますが今年も例年に負けないくらい多くの催し物が行われました。病院主催の催し物だけでなく、外部の方々にもご協力して頂いておりバラエティも豊かでした。

開会の挨拶とともにテープカットが行われ、当院のよさこいチーム楽舞のよさこい踊りで病院祭がスタートしました。第1会場のグラウンドでは、魚歳さん

のはんぺん販売、バルーンアート、就労継続支援B型事業所「わか菜の杜」の野菜販売、「コスモス」のパン販売、JA果菜彩の野菜・花の販売、ココイチのカレー販売、たこやき・やきとり・フランク・焼き芋などの食品模擬店、もちつき、スーパーボールすくい・亀レース・くじ引き・射的などのアトラクションが行われていました。

第3会場のリハビリ棟ではバザー、こころの健康クイズ、作業療法の体験コーナー、患者様が作業療法で作成された作品の展示、血圧測定が行われていました。

第4会場のプレイフロアではベリーダンス、当院の西浦名誉院長によって「地域で暮らそう これからの精神科医療」というテーマで特別講演が行われました。

どこの会場、どのブースもたくさんの方で賑わっており、この日は一日で約400人の方にご来場頂きました。病院祭にご来場頂いた方にアンケートを行いました。 「楽しかった」等た



くさんのお言葉を頂きました。本当にありがとうございました。限りです。それとともに、来年度の病院祭に対するご要望も頂きました。来年度さらに楽しんで頂けるものになるよう、参

演奏が行われました。

考にさせて頂きたいと思えます。



また、病院祭での売上金は地域福祉のために活用していただこうと、鈴鹿市社会福祉協議会へ寄付を続けさせて頂いておりました。平成27年10月14日に鈴鹿市社会福祉協議会の南条会長より、中瀬院長に感謝状が贈呈され、当院の取り組みに対する激励のお言葉を頂戴いたしました。

職員一同、地域の期待に応え、「さえあいい、ともに生きる」社会の実現に向け、これからも努力を続けて参ります。

## 簡単おもてなし料理

松阪中央総合病院 栄養管理科長 北岡伊久子

年の始めに気の合う仲間と楽しいおしゃべり…。  
 自宅できつろぎながら料理も一緒に楽しんでみてはいかがでしょうか。  
 ちょっとぴりご馳走 ヘルシーな簡単おもてなし料理を紹介いたします。  
 \*ポリウムアップには、ローストビーフやグラタン、きのこのソテーなどをプラスして…。



### サーモンのサラダ巻き

材料(4人分)

- スモークサーモン…12切れ
- ポテトサラダ…100〜120g程度
- 玉葱、レモンのスライス少々
- 添え野菜…彩りよくたつぷり
- 1人分約230キロカロリー

- ①角切りにし固めに茹でたポテトサラダを作る。(じゃがいも、きゅうり、人参、コーン缶など)パンプキンサラダでもOK)
- ②スモークサーモンで巻く。
- ③器に添え野菜を盛り、②を盛付け、好みで玉葱、レモンスライスを飾る。

### 人参じゃがのみサラダ

材料(4人分)

- 人参…300g
- くるみ…20g
- すし酢(市販品)…大さじ2
- A ○粒入りマスタード…小さじ2
- 塩…少々
- 1人分800キロカロリー

### イカとじゃがいものサッと炒め

材料(4人分)

- イカ(刺身用のサク)…150g
- じゃがいも…1個
- オリーブ油…大さじ4
- にんにく…(たたくつぶす)2〜3片分
- 赤唐辛子…1本
- 塩…小さじ1/3
- こしょう…少々
- 白ワイン…大さじ1
- 1人分 約1500キロカロリー

- ①イカは細切りにする。
- ②じゃがいもは皮をむいて2cm角に切り、耐熱皿に並べてラップをし、電子レンジで1〜1分半加熱する。
- ③フライパンを熱しオリーブ油をなじませ、②のじゃがいもを入れて弱火でじゅわわ炒め、薄く色づいてきたらに

### 里手の豆乳ポターージュ

材料(4人分)

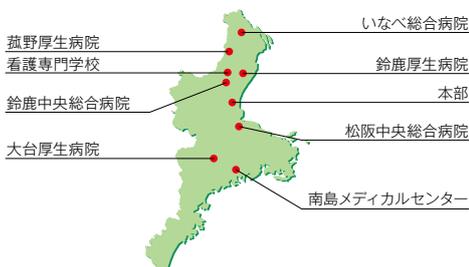
- 里手…240g
- バター…小さじ2(8g)
- だし…300cc
- A ○豆乳…1カップ
- みそ…小さじ2
- 塩…小さじ2/3
- こしょう…少々
- パセリみじん切り…少々
- 1人分 800キロカロリー

- ①①と②を合わせ、Aで合える。
- ②くるみは荒く砕き、フライパンでから炒める。
- ③①と②を合わせ、Aで合える。
- ④③のにんにくが色づいてきたら赤唐辛子とイカを加えて手早く炒め合わせ、塩・こしょう、白ワインをふいてきつくと混ぜながら味をからめて火を止める。

- ①里手は皮を除いて輪切りにする。
- ②鍋にバターをとかし里手を加えて炒め、だしを注ぎ入れて蓋をし、中火で約10分煮る。
- ③ミキサーに入れて攪拌し、Aを加えてなめらかになるまで攪拌する。
- ④器に盛り、パセリを散らす。

## JA三重厚生連 看護師 助産師募集

人に 地域に やさしい看護を



## 厚生連だより #69

2016.1発行

発行/ 三重県津市栄町1丁目960番地

## 三重県厚生農業協同組合連合会

TEL 059-229-9191 FAX 059-224-4354

http://www.miekosei.or.jp/ Email: info@miekosei.or.jp

